

2025年度SPODフォーラム
-大学生をリフレクティブラーナー
として育てる-

講師：上田勇仁

講師：上田勇仁（ウエダハヤト）

- 出身地：広島県広島市
- 学歴・専門
 - 愛媛大学法文学部総合政策学科
ELS（愛媛大学リーダーズ・スクール）SPOD研修生
 - 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程
 - 大阪大学大学院人間科学研究科教育学系博士後期課程 博士（人間科学）
 - 専門：大学教育・教育工学
- 職歴
 - eラーニング制作会社・大正大学専門職員（FD担当）
 - 徳島大学高等教育研究センター・職業能力開発総合大学校 助教
 - 2025年4月～ 帝京大学高等教育開発センター 助教
 - FD担当者・教育に関連する授業を担当
- 生活・趣味
 - 妻・長女（4歳）・長男（1歳）
 - 剣道

【課題】 残念なリフレクション：博士論文の主題

プロジェクトの〇〇を通じて〇〇のスキルが身についた。〇〇のスキルは他の授業でも活用していきたい。他にもチームで〇〇に取組んだ…



Aさん

プロジェクトで〇〇をした。
楽しかった。



Bさん

**Bさんは何も学習していない？
大学教育でこんなリフレクションが溢れてない？
＝リフレクション支援が必要**

本研修の目的



講義形式の授業でも



エントリーシートでも



カリキュラム
ポートフォリオ等でも

• 目的

- リフレクションが得意な大学生（＝リフレクティブラーナー）を育てていくために、
- リフレクションの方法やリフレクションを促す「問い」について講義やワークを通じて理解を深めていく

本研修の対象者

- これから教育活動にリフレクションを取り入れたい教職員
- 実習、プロジェクト学習、サービスラーニングなど経験を中心とする授業を担当している教員
- 就職活動の助言指導に関わっている教職員
- 全学ポートフォリオなどに関わっている教職員

大学生のリフレクションを促したいという方、
授業を担当して無くてもOK

学習目標

1. 大学生のリフレクションを支援するための理論的な枠組みを説明することができる
2. 授業や学士課程教育における教育目標を参照し、リフレクションの方針を記述することができる
3. リフレクションの方針に則して、リフレクションを促すための問いを記述することができる
4. 参加者同士の積極的なコミュニケーションに貢献することができる

本研修の概要

- リフレクションを支援するための理論
 - 自己紹介など
- リフレクションの指針を示すためのループリック評価表
 - ワーク# 1ループリック評価表の作成
- リフレクションを促すための問い
 - ワーク#2問いのデザイン

アイスブレイク # 1

グループ内での自己紹介

自己紹介

- ご所属
- 名前
- 大学内での役割
- リフレクションについて取組んでいることや悩み（→あればで構いません）
- SPODフォーラムで印象に残ったテーマや話題

★正面に対して右前の方から時計回り★

大学生をリフレクティブラーナー として育てるためのリフレクション理論

リフレクションとは？

- リフレクション

- 内省・省察・振り返り（本研修ではリフレクションと表現）

- 辞典（内省）

- 「自分自身の心のはたらきや状態をかえりみること。」（大辞林2019）

- 企業人材育成領域（廣松・尾澤2019）

- 「自己の経験についての気づきを契機に、気づきの吟味から自分自身の特徴や信念など自分自身のありように向き合う構造化された思考のプロセスである。その結果、自己内での意味づけ、認識の変化に至る」

行為だけでなく、自己の意味づけや認識の変化
(≡学習)

リフレクションを捉える理論

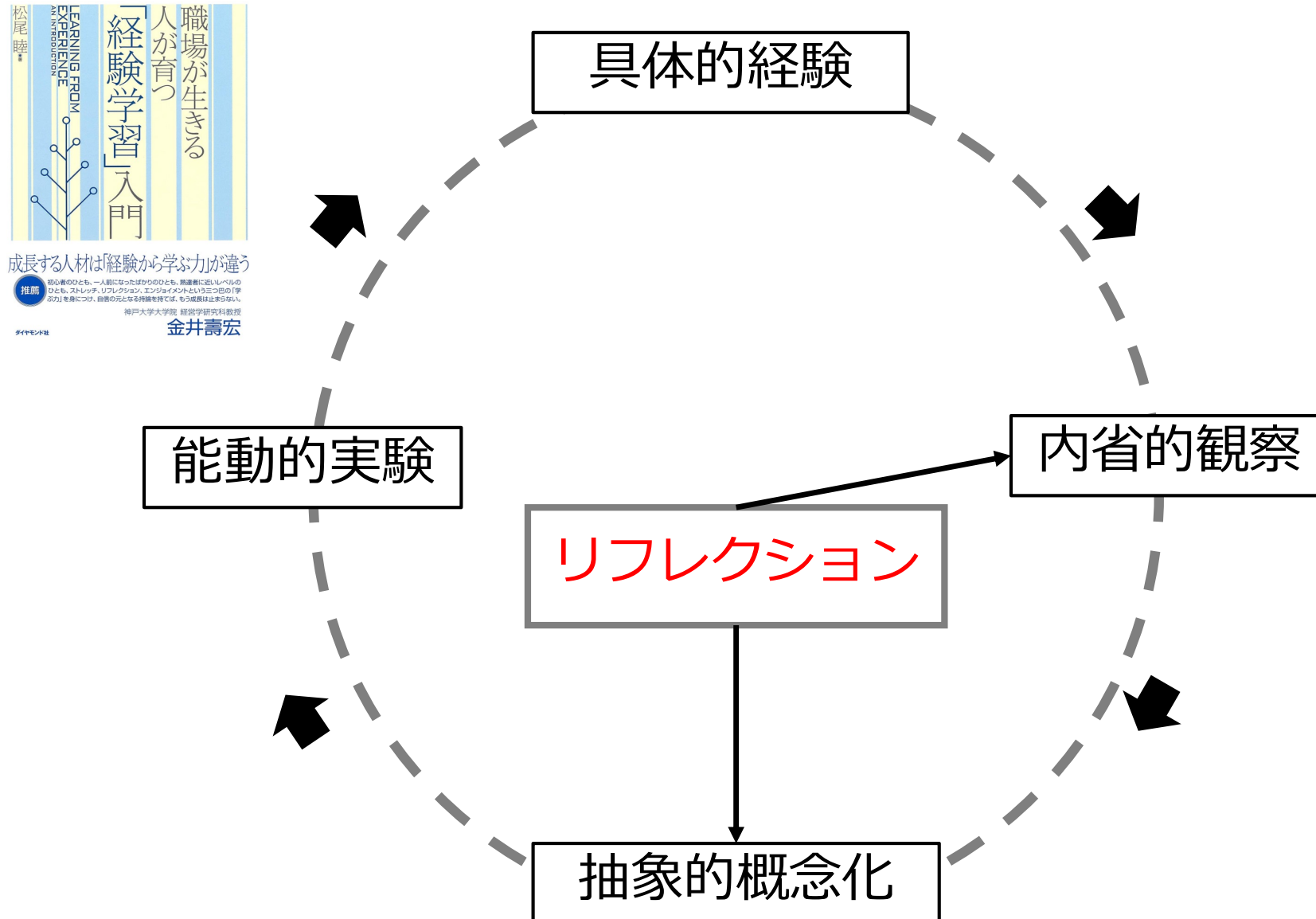
- リフレクション・イン・アクション (reflection-in-action)
 - 「行為の中の省察」と訳され行為の渦中に感じ (feeling) を含む知識を生成するリフレクション
- リフレクション・オン・アクション (reflection-on-action)
 - 「行為についての省察」と訳され, 特定の行為について「吟味の俎上にのせる場合」のリフレクション
 - ショーンの「省察的实践家」に求められるリフレクションのあり方

大学生のリフレクション・オン・アクション
を捉えていく



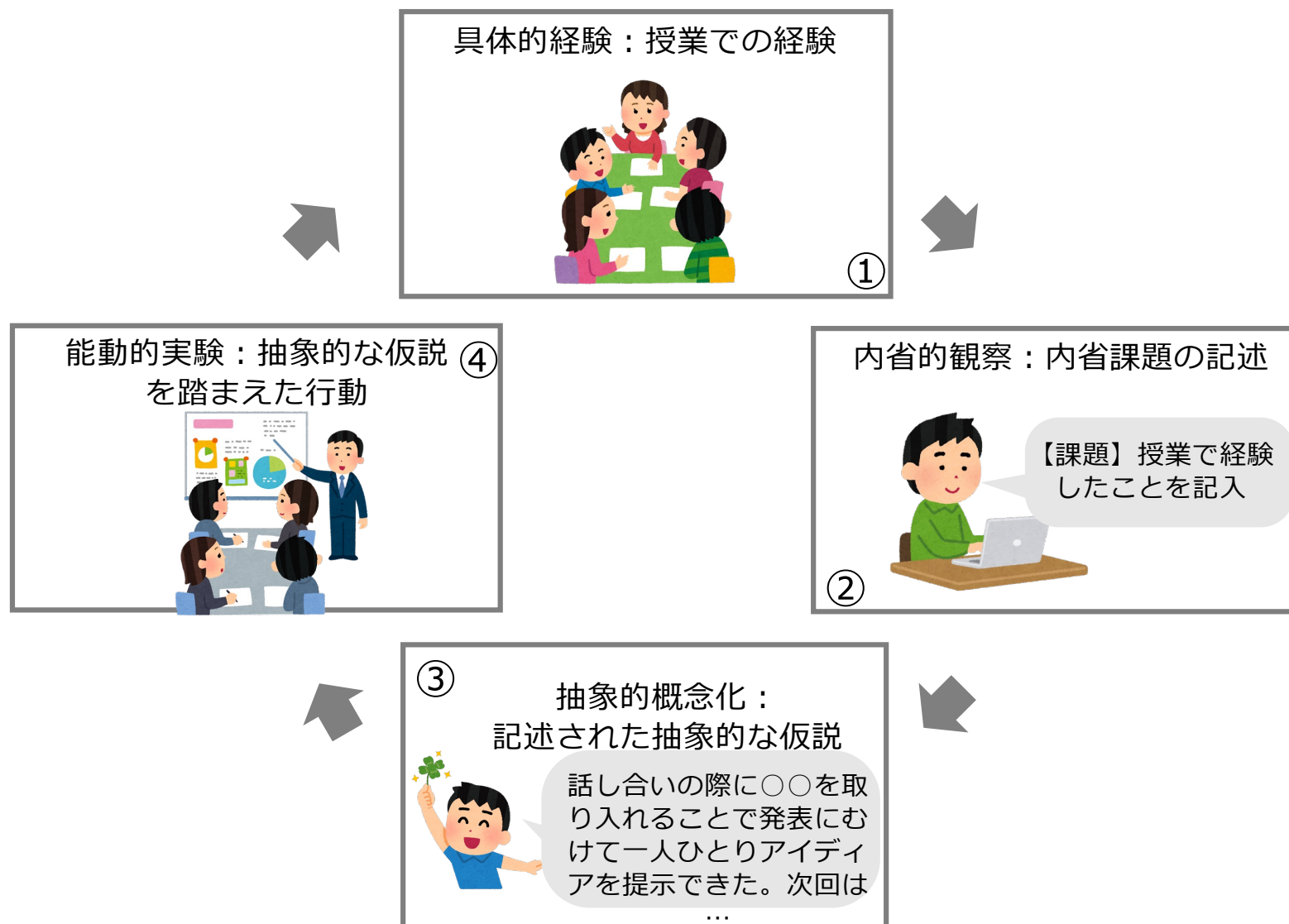
リフレクションのプロセスモデル

図コルブの経験学習モデル



参考：「Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development」Pearson FT Press2014年
松尾睦「職場が生きる 人が育つ 「経験学習」入門」ダイヤモンド社2011年

経験学習モデルの具体例



サイクルの質と量によって学習が深まる

リフレクティブラーナーとは？

プロジェクトの〇〇を通じて〇〇のスキルが身についた。〇〇のスキルは他の授業でも活用していきたい。他にもチームで〇〇に取り組んだ…



授業形態を問わず、経験を通じて
何を学習したかの記述することができる学生

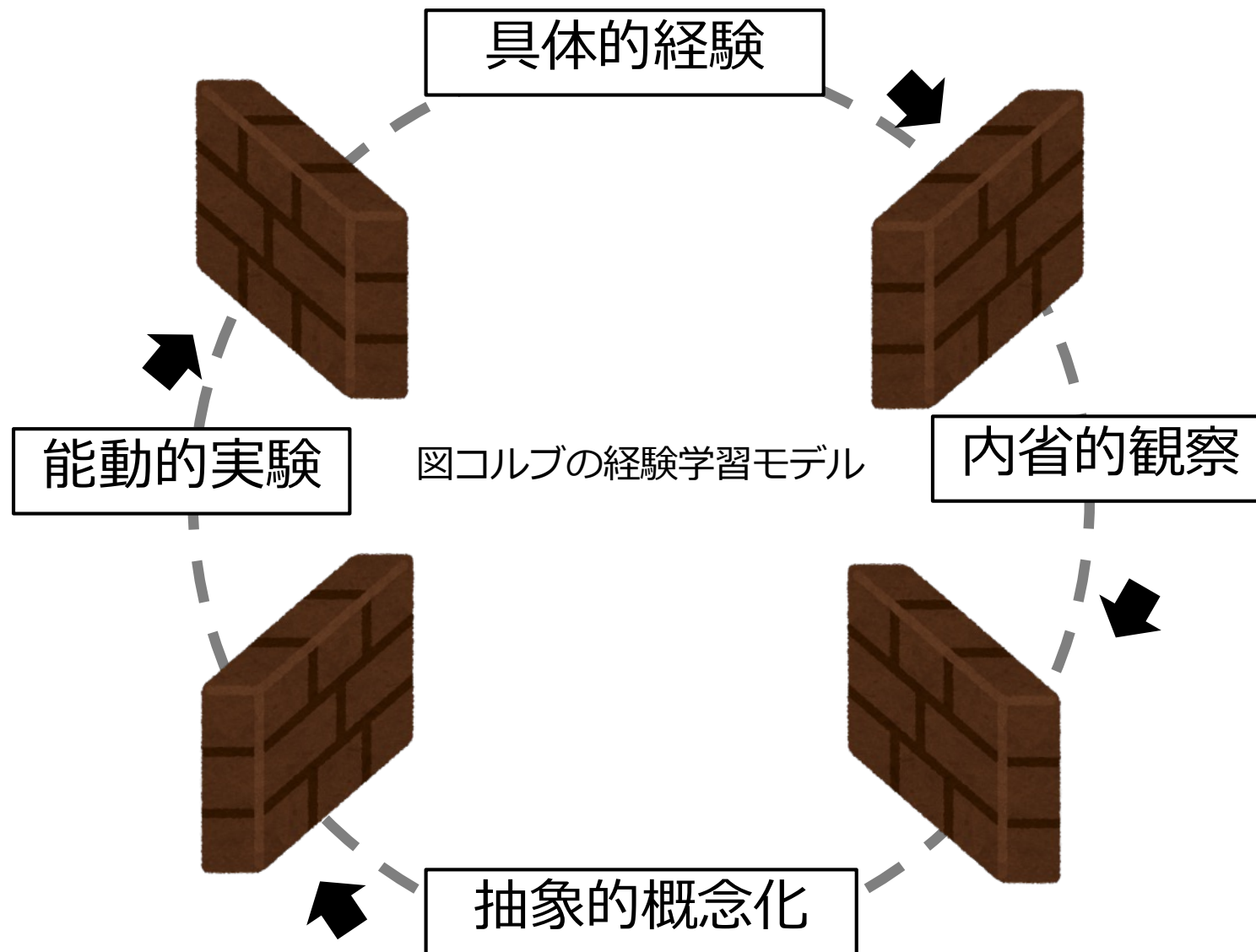
なんで記述形式のリフレクションなの？



記述することで経験が可視化される
他者（教員など）にも自分にとっても有益

コルブの経験学習における壁 ー経験学習モデルの課題ー

経験学習サイクルにおける壁



リフレクションの課題

- プロジェクト学習（上田2017）での振り返り課題：
「感じたこと・学んだこと」
- コーディング
 - 小野田ほか（2011）を参考に「報告」「解釈」を準備「計画」「応用」を生成

コード	説明	記述例
報告	授業内容に対する自身の感想，起こった出来事に関する報告	今回の授業では，各班での中間報告のパワポを使って行った．
解釈	授業内容に対して自分なりに咀嚼し解釈を加えた記述	非言語の話で表情や身振り手振りで話者に伝えるというのが大切であり，聞く側も飽きずに聞くことができると思った
計画	自分自身が行うべき行動計画を記した記述	皆の顔と名前を一致させる努力をすべきだ．
応用	授業のなかで自分自身が取組んだ活動に対して省察した記述	実際に発表して，自分一人で練習していた時はこれで大丈夫だと思っていたけど，やっぱりもっと覚えるぐらい練習して相手の顔を見て言えるようにしたいなと思いました．

「報告」は授業での出来事を記述しているだけ
学習者によっては、「報告」の記述だけで終わってしまう

リフレクション支援の事例紹介

- 大正大学「サービス・ラーニング」
- 対象：1年次から4年次 初年次教育選択科目
- 授業活動：地域に開かれた盆踊りを開催
(事例を調査し、イベントの企画、準備実施、報告会)
- 新型コロナウイルスの際は全てオンライン
- 全15回の授業終了後に必ずリフレクション課題を提出させる
- 論文：上田（2022）振り返り課題における学習目的カテゴリーによる記述量・記述内容の変化_初年次教育学会論文誌 上田、半田（2022）プロジェクト学習における内省支援の実践と評価—解釈と分析を促す記述指示が抽象的概念化に与える影響日本教育工学会論文誌」

例年：学内での盆踊り



2020年：ウェブ会議盆踊り

リフレクションを促すための支援

- 支援の取組効果を検証するためにリフレクション指針（ルーブリック評価表）を作成
- 記述するためのカテゴリを検討する
- 「感じたこと・学んだこと」→何を書いたらいいのかわからない？
- 学習目標に関するカテゴリを設けた

The diagram shows a form with three input fields, each with a title and a prompt. Arrows point from explanatory text boxes to the categories:

- Top Category:** 【授業内容】 授業で学んだこと経験したことを記入 *
回答を入力
- Bottom Category:** 【専門性の応用】 授業で実践してみた・応用してみたことを記入 *
回答を入力

Explanatory text boxes:

- 自身で検討する記述項目 (points to the top category)
- 学習目的カテゴリーを取入れた記述項目
【チームワーク】
【専門性の応用】 (points to the bottom category)

図 学習目標カテゴリ（上田）

リフレクションを促すための支援

図 リフレクションの指針につながる
授業回ごとに記述指示文章を作成（上田）

改善前の記述指示

リフレクション

各回のリフレクションを記述しましょう。
リフレクションは全て授業の中で提示したループリックを使って評価します。

【授業内容】 授業で学んだこと経験したことを記入 *

回答を入力

改善後の記述指示

リフレクション

各回のリフレクションを記述しましょう。リフレクションは全て授業の中で提示したループリックを使って評価します。

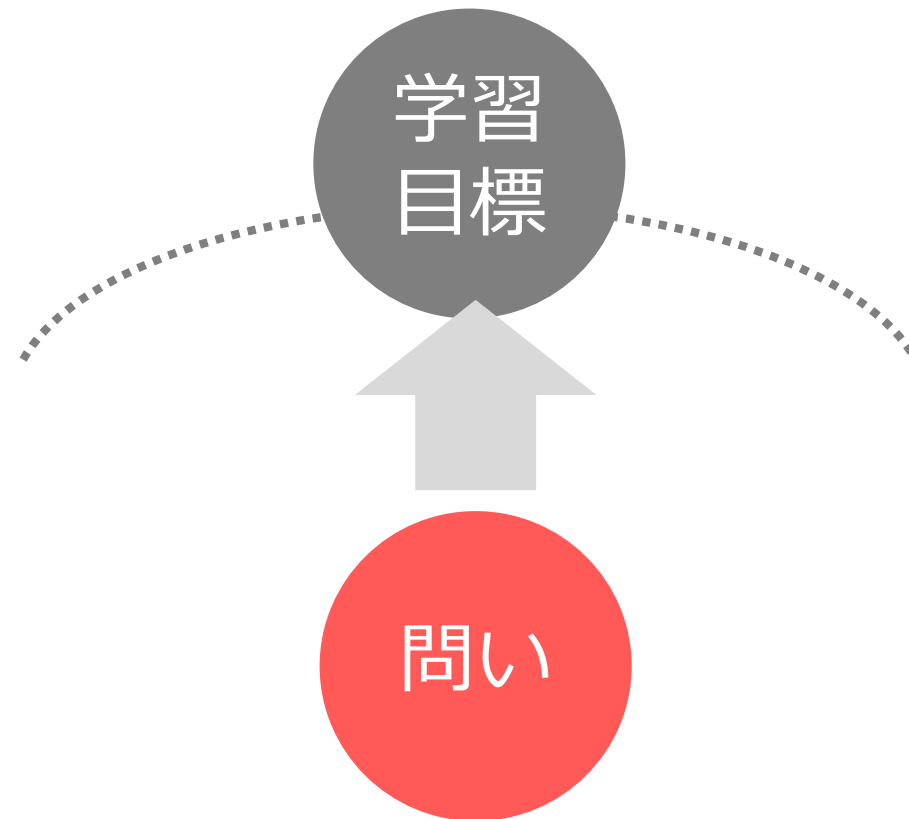
【授業内容・経験】 ① 第6回の授業では、滝野川商店街をテーマにしたプレゼンをしてもらいました。他の班の発表を聞いてみて、感じたこと思ったことを記入して下さい。 ② また、これまでの授業で習った内容と照らし合わせて、他の班のプレゼンに活かされていた点があれば書いてみましょう。 *

回答を入力

①：解釈を促す記述指示の例

②：分析を促す記述指示の例

大学生のリフレクションを促すには？



1. 学習目標やリフレクション指針を示すルーブリック評価表を検討する
2. ルーブリック評価表に記載されて記述を促す問いをデザインする

リフレクション支援他の取り組み

- ルーブリック評価の事前公開
- ルーブリック評価にもとづく記述事例の解説
- ルーブリック評価の採点結果のフィードバック
- 個別にコメントを付けて返却

私の関わった教育実践では、上記の取り組みを実施しても上手くリフレクションできない学生がいたので、「問い」に着手した

リフレクションの指針を示す
ループリック評価表を作成する

ループリック評価を作る意義

とても良い！！

プロジェクトの〇〇を通じて〇〇のスキルが身についた。〇〇のスキルは他の授業でも活用していきたい。他にもチームで〇〇に取組んだ…



～

もう少し

プロジェクトで〇〇をした。
楽しかった。



教員：リフレクションの到達状況を把握できる

学生：リフレクションで求められていることを知ることができる

ルーブリック評価表とは？

- 観点別評価表
- 語源：ラテン語でrubrica（朱書き） 重要の意
- 評価の観点を縦軸、到達度を横軸に表す
- チェックリストより到達度を段階的に示す
- 発表、グループワーク、実技など学生の実践の評価に用いられる
- 単独の教育目標ではなく、複数の教育目標を評価する際に用いられる

ルーブリック評価の例

評価の尺度				
評価の観点	良々できる	できる	もう少し	まだまだ
評価の観点				

観点・尺度・基準の表現

- 明確な表現
 - 1 観点に含める単語は少なく
- 尺度
 - 3～5 段階
 - 3（優／良／可）（5点／3点／0点）など
- 基準
- 修飾語を活用し、段階の違いを表現
 - 良い評価：「十分な」「効果的に」
 - 悪い評価：「全く～ない」

ループリック作成の指針

・ふりかえり深度（和栗2010）

描写的な書き方	ふりかえりをしていない
描写的なふりかえり	描写しつつふりかえるが、2つ以上の視点からふりかえりがない
対話的なふりかえり	多様な見方から俯瞰できており、分析的かつ統合的
クリティカルなふりかえり	多様な見方、かつ批判理論的見方ができる、ということ。視点といういは歴史的、政治社会的な文脈によっても形成されることを認識していること

事例「サービス・ラーニング」

・授業の到達目標

- 地域に開かれた盆踊りを通じて、イベントを実施していくために必要な企画立案力，実行力，チームワークに関する知識と技能を身に付け，大学周辺の地域社会に貢献する態度を涵養すること

目標種類	記述項目	優れている（3点）	良い（2点）	もう少し（1点）
知識	『授業内容・経験』	授業の経験について自身の解釈を記述している。これまでの自身の経験や授業（他の授業を含む）で学習したことと関連付けながら解釈を記述している。	授業の経験について自身の解釈を記述している。	授業内容・授業で起こった出来事の羅列に留まっている。
技能	『専門性の応用』	自身が実践した出来事に関する記述について、良かった点あるいは悪かった点について具体的に記述されている。	自身が実践した出来事に関する記述について、良かった点あるいは悪かった点に関する記述がある。	自身が実践した出来事の羅列に留まっている。
技能	『チームワーク』	チームでの活動やチーム内の役割に関する記述について、良かった点あるいは悪かった点について具体的に記述されている。	チームでの活動やチーム内の役割に関する記述について、良かった点あるいは悪かった点に関する記述がある。	チームでの活動やチーム内の役割に関する記述が羅列に留まっている。
技能	『企画立案』	今後の計画について記述があり、計画を実行するために必要な行動が具体的である。また、数値目標・期日など数字を示している。	今後の計画について記述があり、計画を実行するために必要な行動が具体的である。	今後の計画についての記述がある。

ワーク# 1

- ルーブリック評価表の作成
 - ご自身の担当する授業・業務を対象
 - リフレクション（記述式）を検討
 - 新規・既存は問いません
 - 授業・業務でリフレクション（記述式）を取り入れることが難しい場合は、興味のある授業、全学で実施している学習ポートフォリオなど想定して考えてみましょう。
- ルーブリック評価表の形式
 - 配布資料に直接記入ください
 - 箇条書きになっても構いません

リフレクションを促す問い
をデザインする

リフレクションを促す問いの指針

- S (Simple) : 複雑な問いは避ける
- R (Remind) : 記憶を呼び起こす
――
- G (Goal) : 学習目標に結びつける
- OR
- E (Emotion) : 学習者の感情に問いかける

S (Simple) : 複雑な問いは避ける

- ルーブリック評価の観点 1 つにつき 1 つの問いを検討しましょう。（多くても 2 つまで）
- **複雑な問いの例（教育学）**
 - グローバル化が急速に進展する現代社会において、多様な文化的・言語的背景を持つ子どもたちが共に学ぶインクルーシブな教育環境を構築することは、公教育における喫緊の課題である。この課題に対し、教育現場が直面する具体的な困難を少なくとも3つの側面（例：カリキュラム、教師の専門性、保護者・地域社会との連携）から分析し、それらを乗り越えるための具体的な方策を、教育思想（多文化主義、インターカルチュラルリズムなど）の観点を取り入れながら論じなさい。
 - 問題点：論点が多い、分析観点が多い
- **シンプルにした問いの例**
 - 「多様な文化背景を持つ子どもたちのために、日本の公立学校がすべきことは何だと考えますか？」
 - 「多様な文化を持つ子どもたちが安心して学べるクラスを作るために、教師はどのような工夫ができますか？」

R (Remind) : 記憶を呼び起こす

- 学習活動を問うリフレクションを実施する際には、「何をしたか思い出す」のに苦労する

リフレクション

各回のリフレクションを記述しましょう。リフレクションは全て授業の中で提示したループリックを使って評価します。

【授業内容・経験】 ① 第6回の授業では、滝野川商店街をテーマにしたプレゼンをしてもらいました。他の班の発表を聞いてみて、感じたこと思ったことを記入して下さい。 ② また、これまでの授業で習った内容と照らし合わせて、他の班のプレゼンに活かされていた点があれば書いてみましょう。*

①授業で取組んだ学習活動を提示するだけで
記述する支援につながる

G (Goal) : 学習活動と結びつける

- 学習目標に関連する問いを検討する

リフレクション

各回のリフレクションを記述しましょう。リフレクションは全て授業の中で提示したループリックを使って評価します。

【授業内容・経験】 ① 第6回の授業では、滝野川商店街をテーマにしたプレゼンをしてもらいました。他の班の発表を聞いてみて、感じたこと思ったことを記入して下さい。 ② また、これまでの授業で習った内容と照らし合わせて、他の班のプレゼンに活かされていた点があれば書いてみましょう。*

回答を入力

②の設問を設けることで、他の授業回で学習した内容（分析）を踏まえて記述を促すことができる

E (Emotion) : 学習者の感情に問いかける

- 学習者の感情（驚き、喜び、不安など）を焦点を当てる
- 例：授業「教育学」チームで模擬授業を実施したあとのリフレクション課題

チームでの模擬授業を通じて、他のチームメンバーの言動で気なる箇所を記述してみましょう。^{*}
（気になる言動＝モヤモヤ。例：作業の質、速さ、コミュニケーション、連絡や意思疎通、成果物に対する価値観など）

長文回答

学習者の感情を思い出させることによって、
気づきを促す

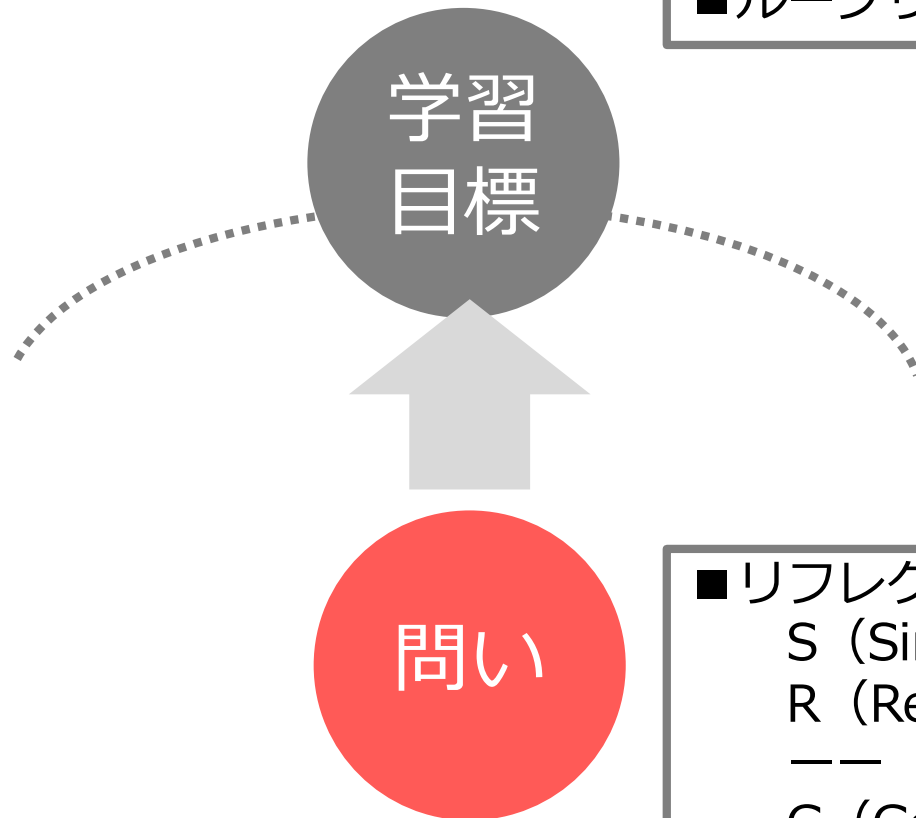
ワーク # 2 問いのデザイン

- 作成したループリック評価表に関連する記述を促すための問い（記述項目・記述指示文章）とその意図を作成しましょう
- 問いを作成する際には下記のヒントを参考にする
 - S (Simple) : 複雑な問いは避ける
 - R (Remind) : 記憶を呼び起こす
――
 - G (Goal) : 学習目標に結びつける
 - OR
 - E (Emotion) : 学習者の感情に問いかける

まとめ

本日のラップアップ：大学生をリフレクティブラーナーとして育てるためには？

■ループリック評価を作る



■リフレクションを促す問い

S (Simple) : 複雑な問いは避ける

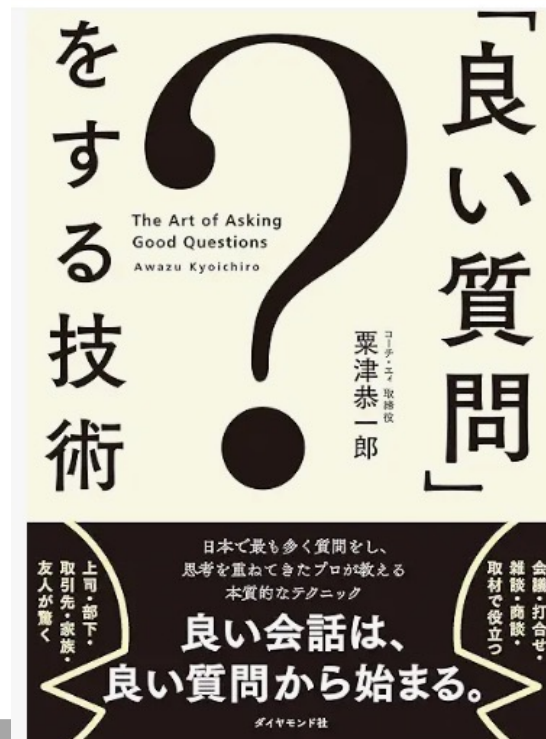
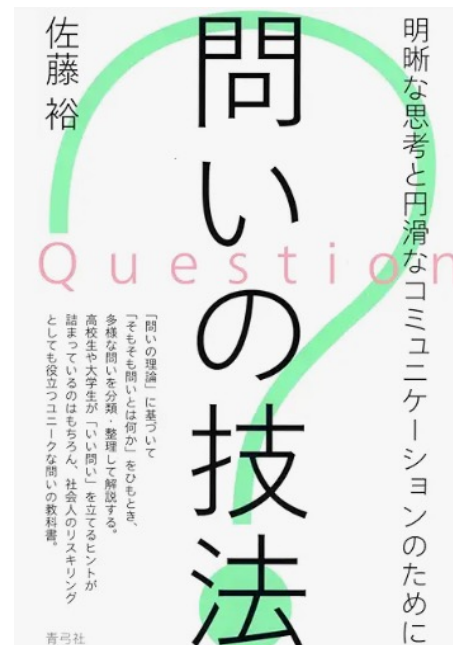
R (Remind) : 記憶を呼び起こす

—

G (Goal) : 学習目標に結びつける

OR

E (Emotion) : 学習者の感情に問いかける



より良い問いをデザインするために

- 今回の条件

- 授業やカリキュラムでの経験
- 記述を通じて学習した内容を記述する
- 1対多人数（教員対大学生）

リフレクションを促す問いをデザインすること =
学生に何を学んで欲しかのか、自身の授業
（内容・方法）を捉えなおすきっかけになる